

安全確保への主な取り組み

設備稼働区域への侵入防止対策



設備稼働区域では、作業者が誤って機械を止めずに侵入するのを防ぐため、安全柵、安全プラグスイッチ（扉を開けると自動的に設備が停止）の設置、扉の施錠を行い、ヒューマンエラーによる災害を防止しています。

リスクアセスメントへの取り組み



職場に潜んでいるリスクを見つけ、改善策を実施しながら計画的にリスクを潰していく活動を推進しています。2009年7月に開催されたTPM社内大会では、リスクアセスメントによる本質安全化の取り組み事例の発表がありました。

命札の確実な使用



機械設備などの稼働区域に入るときは、機械への巻き込まれや誤操作を防ぐため、機械を停止させ、機械のスイッチ等に、「命札」を本人が取り付け、本人が外すという基本ルールの徹底に取り組んでいます。

安全体感教育



従業員の安全意識高揚のため、外部の安全体感教育を受講してきました。2010年10月からは、構内に設置した安全体感施設で安全体感教育を繰り返し実施することにより、災害ゼロの実現を目指します。

危険予知訓練



危険に対する感性を高めるために、作業開始前に職場単位で、潜在する危険要因を洗い出して共有化し、災害を未然に防ぐための安全先取り活動を行っています。

健康・衛生への主な取り組み

従業員の健康管理



健康支援策として、診療所での健康診断検査内容を充実させるほか、40歳から5年毎に人間ドックの受診を義務づけています。

AEDの設置



AED(自動体外式除細動器)を診療所など社内にて6台設置し、心肺蘇生法とAEDによる応急処置訓練を実施しています。

メンタルヘルスマネジメント講演会



職場のメンタルヘルスケアについて正しい知識を取得するために、2010年2月に産業カウンセラーを招いて講演会を開催しました。